

科目名		建築特講			
担当教員	野口 信彦・廣田 邦昭	実務授業の有無			
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築空間の表現・伝達に必須である設計の表現方法の一つとして必要な①デッサン（鉛筆）又は Revit Architecture ユーザー試験のいずれかを選択。② j w_cadの操作方法習得のいずれかを選択し、履修後 jw_cadの項目で、合流する。2次元での空間表現のスキルを上げるため、繰り返し練習する。				
学習目標（到達目標）	エスキスの習熟度を上げ設計提案のノウハウを体得することを目的とします。また、建築士が必要とするスキルにあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①REVIT検定対策本 ②デッサン資料・やさしく学ぶ jw_cad使用				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	選択1 デッサン（鉛筆）・（選択授業） ①立体をイメージし、構築していく上での、デッサン	方法：デッサン力を身に付けられれば、形状認識の能力も上がり、手書きパースによるプレゼンの一手法として活用する。また、イメージした物を、スケッチし、検討するためのツールとして習得する。 準備学習：自分で設定したモチーフ等で、練習			
	選択2 Revit Architectureユーザー試験 ①Revit検定対策授業	方法：対策本をもとに検定対策を実施し、合格を目指す。課題→講評→解説を繰り返すことでスキルを身に付け、合格基準到達を目指す。 準備学習：PCソフトに慣れることが重要のため、自宅等で練習。			
3	jw_cad ①2次元CADのjw_cad	方法：2次元CADのjw_cadを基礎から学びます。他のCADも他授業で学んでいますが、製図版で書く手書き製図感覚で操作できるjw_cadをココで学びます。 準備学習：PCソフトに慣れることが重要のため、自宅等で練習。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題作品の課題評価点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題評価点80%・授業態度20%		デッサンと、Revit、いずれか選択し、その後、jwcadで合流する授業形態となっている。いずれも、建築にとって重要な要素のため、選択の際に、適切な説明やアドバイスが必要。 REVIT検定に合格しより実践的な使い方を身につけて下さい。 デッサンの必要性を感じて欲しい。また、手軽に使える j w_cadを習得してもらいたい。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	野口 信彦:設計事務所にて設計業務に11年 廣田 邦昭:店舗設計、現場管理に41年従事				

科目名		建築特講			
担当教員	西原 政宏	実務授業の有無	○		
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	2級建築士に必要な、エスキスと製図、確認申請の書類などを作成する実務に基づいた実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. エスキスや製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設計、申請の進め方の基本を理解する。				
学習目標（到達目標）	設計から確認申請までの設計実務を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	設計製図テキスト（総合資格学院）/プリント配布				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	新潟市内に建つ専用住宅 ●課題【実際の住宅の実務シミュレーション】 ①敷地条件で専用住宅の設計と ②確認申請書類の作成 ③敷地条件に適した法規チェック ④エスキスの作成 ※エスキス完成時に先生のチェックを受ける。 ⑤確認申請に必要な設計図書の作成。 ⑥概要書、 ⑦仕上げ表、 ⑧平面図、 ⑨立面図 ⑩プレゼン用の外観CGI面の作成 ⑪確認申請書類の作成。 ※提出物 設計図書（各図面A3用紙） 外観CG（A3用紙に印刷） 確認申請書類（Wordで入力したファイルを印刷）	方法：総合的要素のある実習。 説明→解説→チェック修正を繰り返し、完成させる。 新潟市内の実際にある敷地条件で専用住宅の設計と確認申請書類の作成までを行う。敷地条件に適した法規チェックを行いながらエスキスを作成します。確認申請に必要な設計図書を作成する。概要書、仕上げ表、平面図、立面図、プレゼン用の外観CGI面を作成します。確認申請書類を作成します。 長いスパンで制作する課題のため、スケジュールと習熟度を定期的にチェックし完成度を上げる。 準備学習：教科書、教材を確認と復習。			
	必須提出課題の点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題80%・授業態度20%	実務に則した内容のため、正確性も含めスケジュール管理を行い、作業を進める。分らないことは、作業が止まる前に解決させ、進捗管理を徹底する。 漠然としたイメージを、形にしておくために、企画背景や情報分析も重要な要素になっています。また、論理性や計画性、そしてプレゼンテーション力のスキルも必要となります。物事を整理する力をつけることを習慣化させることがこの実習のポイントでもある。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	設計事務所にて建築設計・監理業務に7年従事				